

第 13 章 駒林遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高 12 ～ 15 m 前後の平坦地を形成する。もともと遺跡の範囲は南北 300 m、東西 800 m の範囲であったが、2002 年から 2004 年に行った駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大溝を検出した南北 160m、東西 80m の範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包蔵地として 2004 年 3 月に追加した。第 3 地点で検出した溝と過去の試掘調査で検出した溝の配置を再検討した結果、一辺 140 ～ 160m の台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、2008 年 2 月に遺跡範囲の変更増補を行った。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ部分的に畑が残っている。

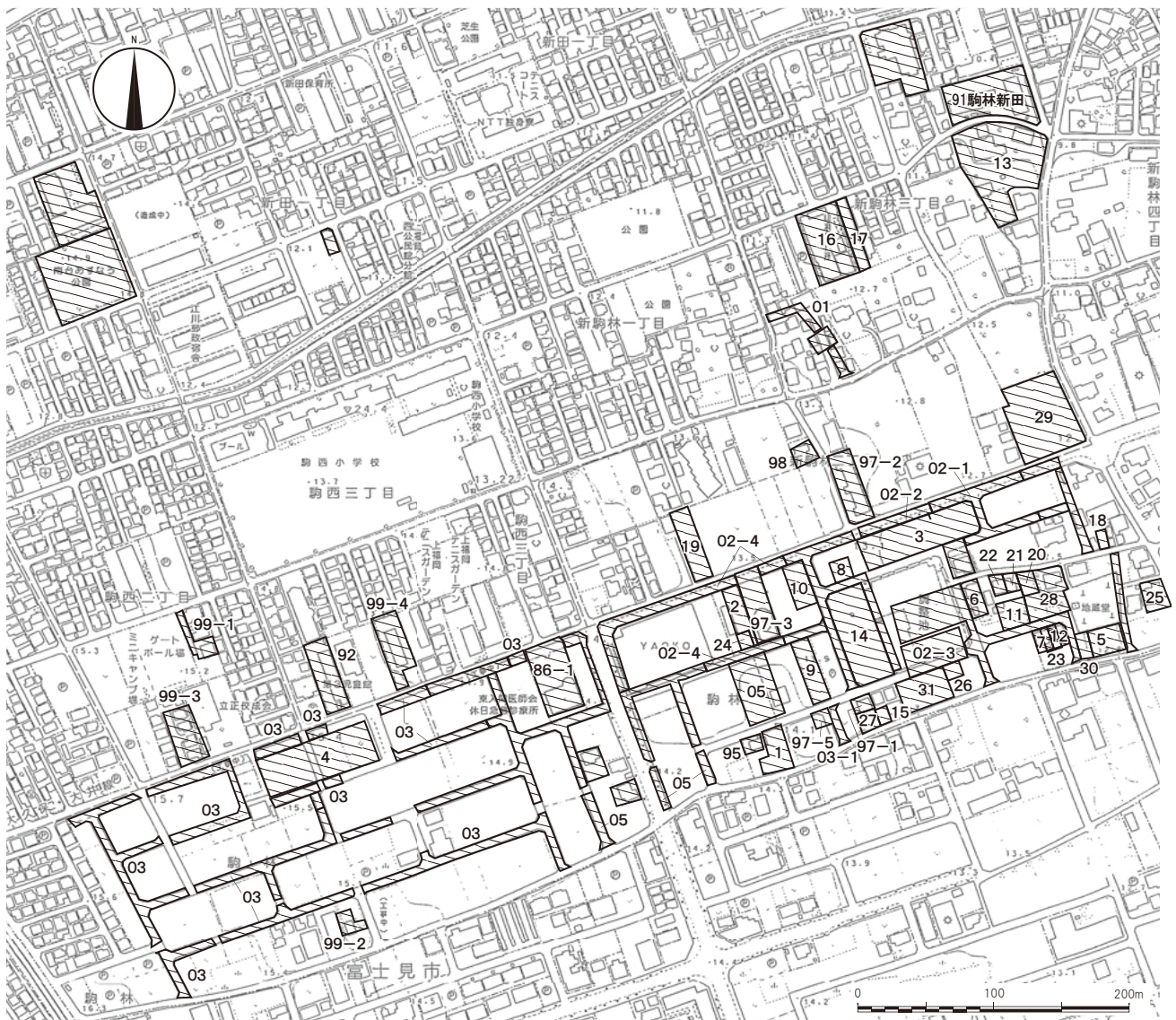
周辺の遺跡は、北側に葺石と板碑を検出した駒林中世墳墓、東側に地下式坑を検出した駒林新田前遺跡、500m 下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の稲荷久保北遺跡がある。2002 年以降の試掘調査の結果、幅 5 m、深さ 2 m の大溝や茶臼跡、縄文時代の集石土坑等を検出する。

II 駒林遺跡第 16・17 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2011 年 4 月 8 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。現状は更地となっていたが、以前は一続きの土地で、工場が建っていた。

また、再開発に当たり、東西で土地所有者が異なる



第 53 図 駒林遺跡の地形と調査区 (1/5,000)



第54図 駒林遺跡遺構分布図 (1/2,000)

VI 駒林遺跡第28地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2013年5月7日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。

申請地は、2013年2月15日付けで、宅地造成に伴う「埋蔵文化財事前協議書」が、ふじみ野市教育委員会に提出され、2013年2月21日～25日に、幅約1～2mのトレンチ9本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。地表面から深さ50～70cmで、中近世以降の堀跡などを確認している。

今回は2012年度の試掘調査をもとに、原因者と協議の結果、工事による遺跡への影響が避けられないた

め、原因者負担による本調査を実施した。

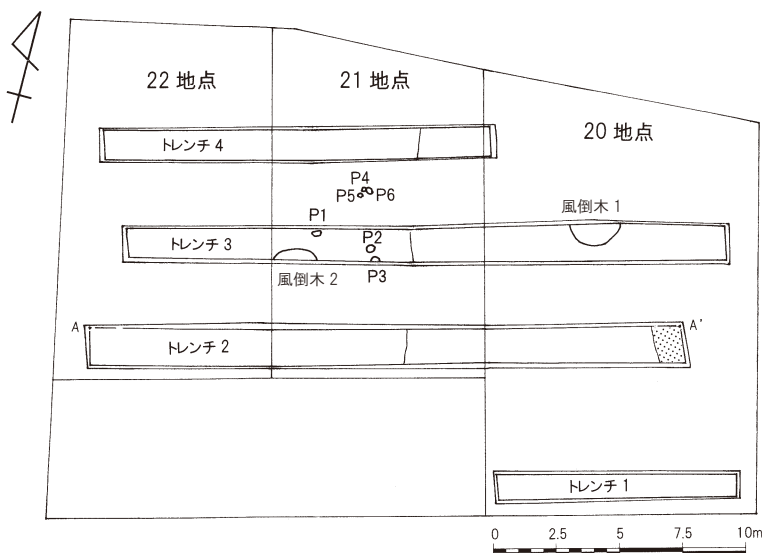
本調査は、5月21日～27日まで行い、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、本調査を終了した。試掘調査および本調査では、旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

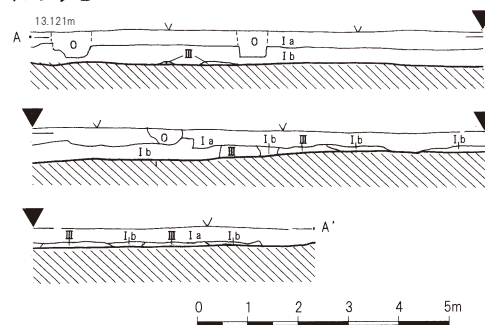
調査区は、土地境界の中央部のブロック塀を境に、

第27表 駒林遺跡第21地点ピット一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P1	(長方形)	38×24	12×6	44.3	
P2	方形	30×27	16×15	42.5	
P3	不明	35×(15)	12×7	28.6	
P4	方形	24×21	13×13	27.0	
P5	方形	25×20	13×10	28.0	
P6	長方形	21×19	11×4	24.2	



トレンチ 2

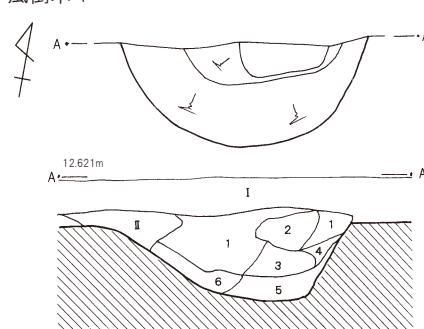


O. 攪乱

I a. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体の盛土及び攪乱、大方はローム粒(2mm以下)少しだけ含む

I b. 黒褐色土 締り強、粘性有、ソフトロームブロックを多く含む、耕作土
III. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状に黄褐色ソフトロームをやや多く含む、焼土・炭化物は含まない

風倒木 1



風倒木 2

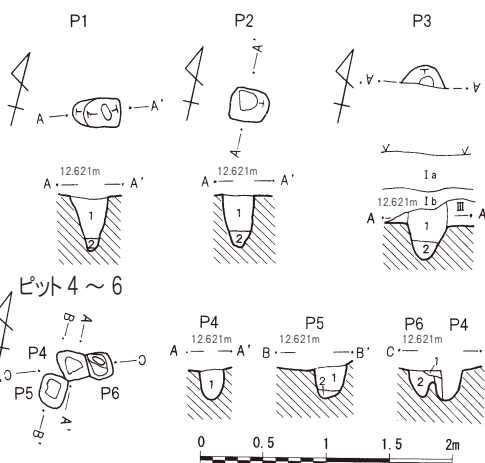
1. 黒褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体に茶褐色土多く含む、2mm以下ローム粒下層に多く含む、上層少ない
2. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム主体(ブロック・粒)にシミ状に黒褐色土少し含む、ローム主体
3. 暗褐色土 締り有、粘性有、2層より3cm大ロームブロック多く含む以外は2層に同じ、ローム主体
4. 暗褐色土 締り有、粘性有、2層に同じ、やや黒褐色土多い
5. 黒褐色土+暗褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体に2mm以下ローム粒多く、2cm以下ロームブロック下層に多く含む
6. 暗褐色土 締り有、粘性有、ソフトローム主体に上層で4cm大ロームブロック・1cm以下シミ状ローム少し含む

風倒木 2

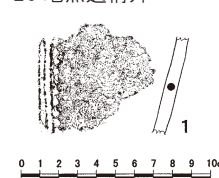
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状に黒褐色土・3mm以下ローム粒多く含む
3. 黒褐色土+暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒をやや多く含む、黒褐色土とソフトローム土が混ざり斑状を呈する
4. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、地山のローム土に比べ色調暗め

ピット

1. 黒色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む、動植物の攪乱によるローム土の混入が目立つ
2. 黄褐色土 締り強、粘性有、黒色土主体で2cm以下ソフト質ロームブロックを多く含む



20 地点遺構外



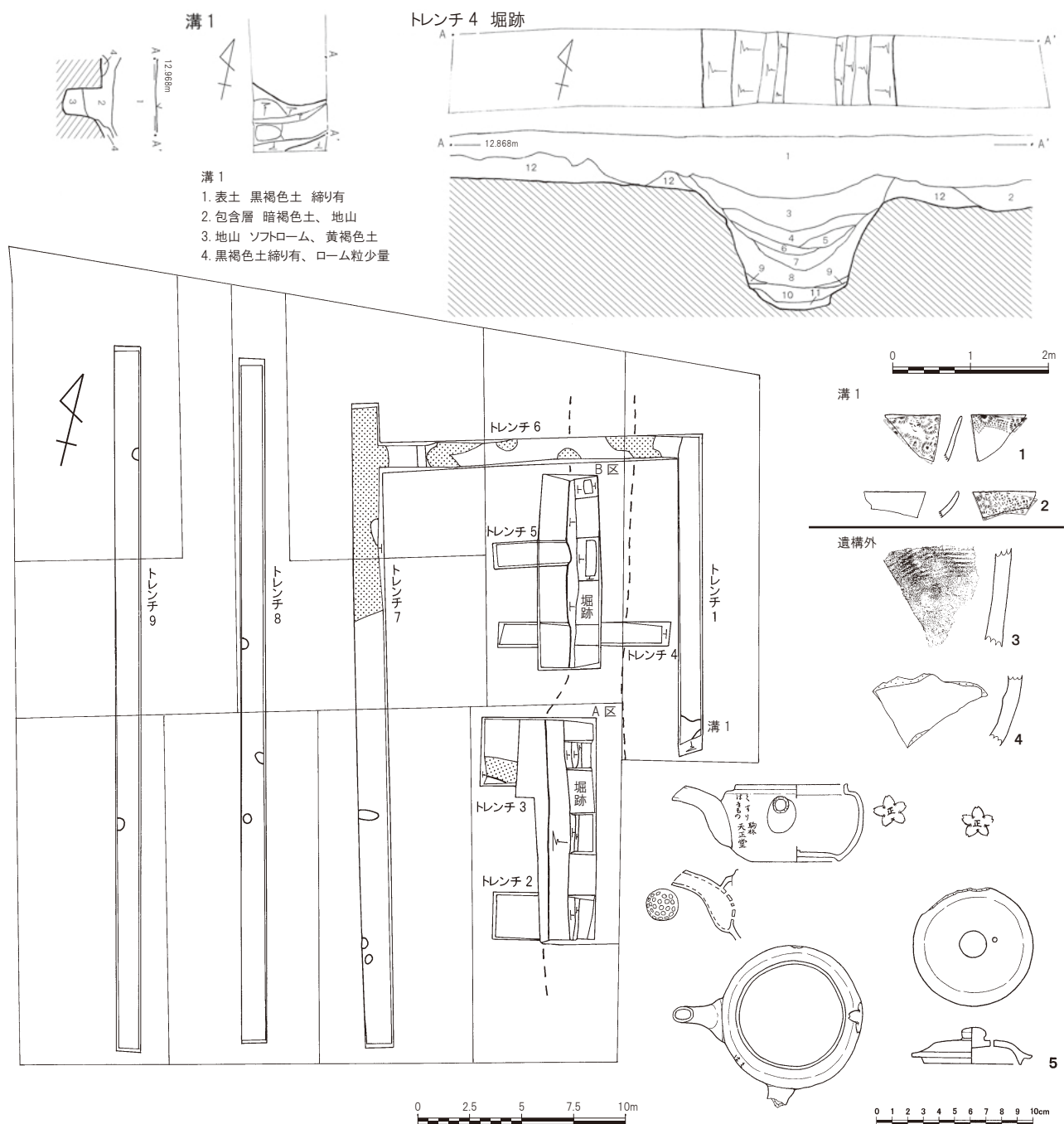
第62図 駒林遺跡第20～22地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、風倒木・ピット(1/60)、出土遺物(1/4)

南側をA区、北側をB区とした。堀跡は試掘調査および、今回の本調査で検出した。溝1は、試掘調査時に検出した。

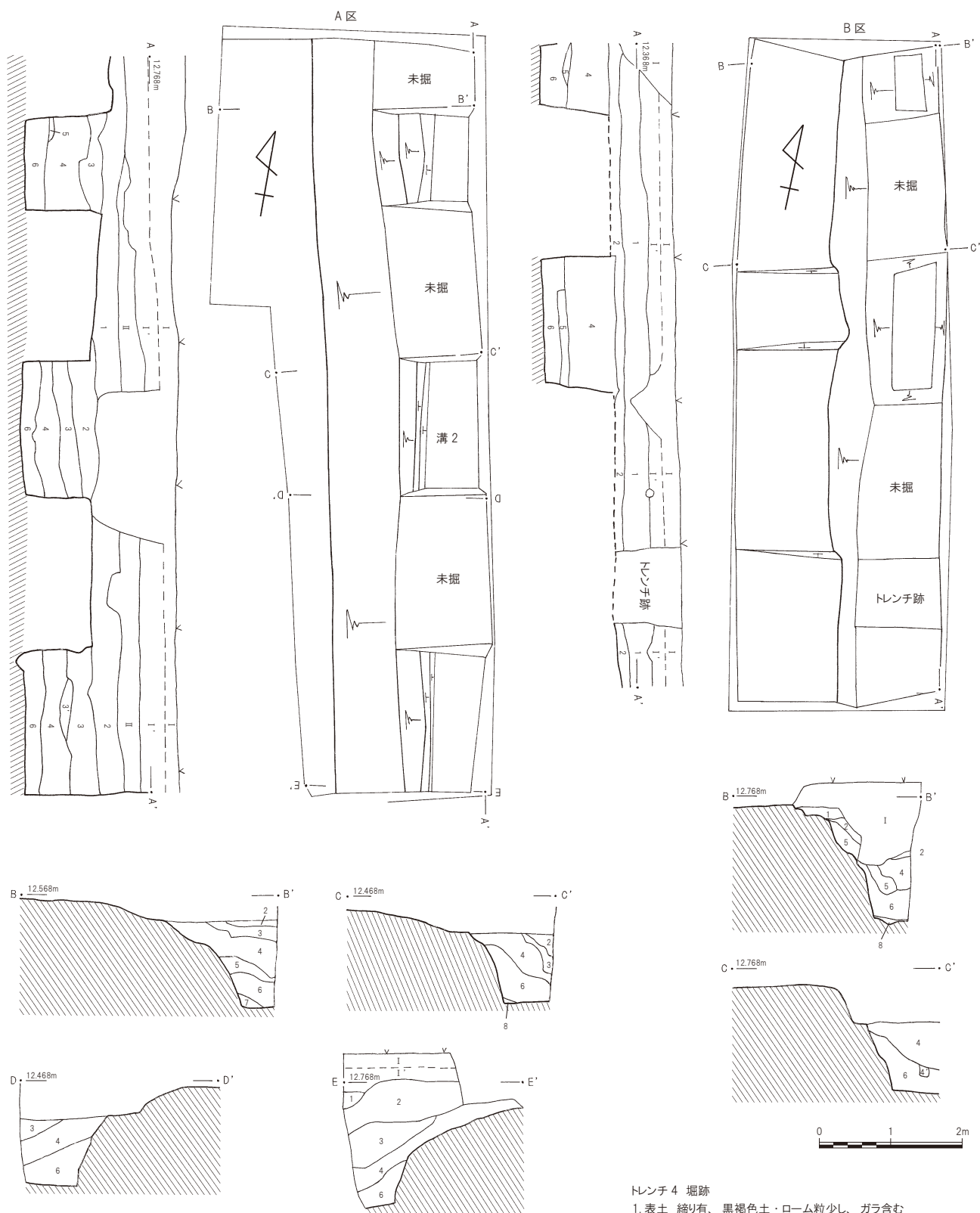
堀跡は調査区東部に位置し、南北方向に延びる。本調査では、土地境界のブロック壁があり、堀跡の西側部分のみ検出した。断面は幅広い薬研堀で、上幅275cm、下幅68cm、深さ151.2cmである。溝1は調査区東端に位置し、大部分は調査区外に延びる。断面はほぼ垂直に立ち上がる。上幅40cm、下幅23~27cm、深さ76.3cmである。堀跡と溝1は中近世以降である。

遺物は、溝1の覆土層から磁器片が2点出土する。

1は磁器の碗で、口径(12.5)cm、器厚0.3cm、轆轤成形で型紙染付の花文。2は磁器の皿で、口径(12.5)cm、器厚0.3cm、轆轤成形で型紙染付の花文。1・2は瀬戸・美濃産、1880年代以降。3は須恵器の甕で器厚1cm、紐積成形で外面に平行叩き目、割れ口に研磨痕有り、東金子産。4は焼締陶器の大甕で器厚1.1cm、紐積成形、胎土は灰色の常滑産で、15世紀以前。5は陶器の急須で口径6cm、底径4.9cm、器厚0.2~0.4cm。轆轤・貼付成形、透明釉、半球形茶碗、下絵付(黒)銘有り、「くすり はきもの 駒林天正堂」、京・信楽産、近・現代。



第63図 駒林遺跡第28地点遺構配置図(1/300)、堀跡・溝1(1/80)、出土遺物(1/4)



- I. 黒色土 締り弱、粘性有、地表土又は盛土表土、ゴミ等も含む
 I'. 黒色土 締り有、粘性有、旧耕作土、2mm 以下ローム粒多く含む
 1. 黒色土 締り有、粘性有、2mm 以下ローム粒多く含む、II 層より締り強く密である他はほぼ同じ
 2. 黒色土 締り有、粘性有、黒色土主体に 1 ~ 2cm 大ロームブロック少し、5mm 以下ローム粒
 3. 暗褐色土 + 黒色土 締り有、粘性有、5cm 以下のロームブロックと黒色土の混合土
 4. 黒色土 締り有、粘性有、黒色土主体に 2cm 以下ロームブロック少し含む
 5. 暗褐色土 締り有、粘性有、褐色ローム主体に 5cm 以下シミ状黒色土少し含む
 6. 褐色土 締り有、粘性有、褐色ローム主体に 3cm 以下シミ状黒色土少し含む
 7. 黒色土 締り弱、粘性有
 8. 褐色土 締り弱、粘性有、褐色ロームブロックの層

トレンチ 4 堀跡

1. 表土 締り有、黒褐色土・ローム粒少し、ガラ含む
 2. 黒褐色土 締り弱、~ 5mm 大ロームブロック多く含む
 3. 暗褐色土 締りやや有、~ 1mm ローム粒少し含む
 4. 黒褐色土 締り弱、~ 1mm ローム粒極少し含む
 5. 暗褐色土 締り弱、~ 1mm ローム粒多く含む
 6. 暗褐色土 締り弱、~ 3mm ローム粒多く含む
 7. 褐色土 締り弱、ローム細粒主体、~ 3mm ローム粒極多く含む
 8. 黄褐色土 締り弱、~ 5mm ローム粒主体
 9. 黒褐色土 締り弱、~ 3mm ローム粒主体
 10. 黄褐色土 締り弱、ロームブロックとローム粒主体
 11. 黄褐色土 締り有、ロームブロック主体
 12. 地山 黄褐色ローム層

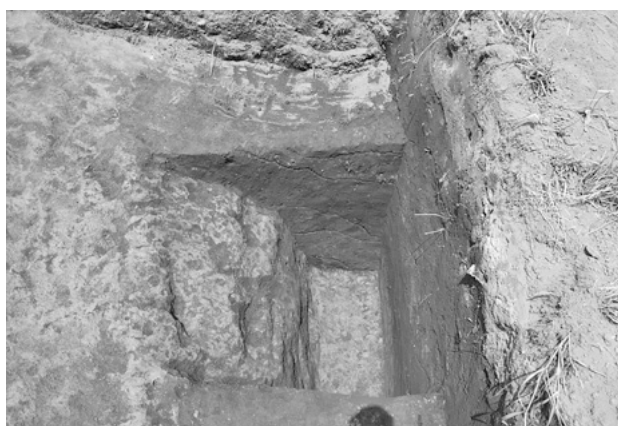
第 64 図 駒林遺跡第 28 地点堀跡 (1/80)



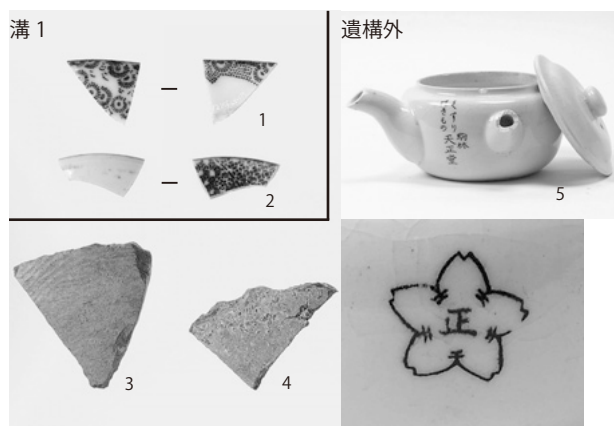
駒林遺跡第 28 地点 A 区全景



駒林遺跡第 28 地点 B 区全景



駒林遺跡第 28 地点 A 区掘跡



駒林遺跡第 28 地点溝 1、遺構外出土遺物



福岡新田遺跡第 2 地点調査風景



福岡新田遺跡第 2 地点トレンチ 1



東久保南遺跡第 29 地点調査風景



東久保南遺跡第 29 地点調査風景